



海外留学は、毎日が新しい発見の連続。
 生まれた国を飛び出し、CUCで学びながら、
 たくさんの学生との交流を深める。
 そんな留学生の活動や日々の想いに迫った。

世界交流

CUC留学生会 会長
アリムジャン アサン
 商経学部商学科 3年
 中国 新疆ウイグル自治区出身

世界を知り、ビジネスを学ぶ。
 そんな目的を胸に、日本へ。



僕の名前はアリムジャン・アサン。中国の新疆ウイグル自治区出身で、商経学部で国際経営を学んでいます。父が商売をやっていて、自分もビジネスの専門知識を身に付けたいと思い日本に来ました。海外で学ぶことにしたのは、広い世界に出て自分の力を試してみたいと思ったからです。

留学先の候補はいくつかありましたが、日本に留学したことのある親戚が「日本は同じアジアで近いし、発展しているから勉強になるよ」と勧められたのが決め手になりました。

日本に来てからはまず専門学校で日本語を勉強し、その後ビジネスが学べる大学を探しました。CUCはインターネットで見つけて、下見にも来たんです。キャンパスが緑豊かで、留学生が多すぎないことに惹かれてここに決めました。「留学

生が多いと多様性はあるけれど、日本語が上達しにくいかもしれない。CUCでは日本人の友達をたくさん作り、日本で生活にもっとなじみたい」と思っていました。

入学してみると、CUCには国際センターがあり、留学生のサポートしてくれるスタッフや先生がいました。大学生活のすべてにおいて僕たち留学生のことを応援してくれています。春の歓迎会や冬のクリスマスパーティなど、留学生と日本人学生が交流する機会もたくさんあり、iSquare^{※1}ではLanguage Exchangeや異文化交流プログラムがあります。CUCパティーズという、日本人学生が留学生の友達になって相談相手をしてくれる制度もあります。現在では、交換留学生の宿舎である国際寮に「国際交流室」が作られ、留学生とCUCパティーズが交流する場となっています。そのような中で、僕が入学した年から、留学生が主体になってさまざまな活動をする「留学生会」という組織も立ち上がりました。

※1 CUC International Squareの通称。学内にいながら外国語や異文化に触れられる施設。

留学生同士で助け合う「留学生会」、日本人学生との交流もめざして。

CUCの留学生の出身地は、中国や韓国、ベトナムやウズベキスタンなどさまざまです。しかし、出身地ごとに固まりが

ちで、人数も少ないので、日本人学生の中には留学生の存在に気づかない人もいます。もっと留学生同士で交流を深めれば困ったときも相談しやすいし、日本人学生にもアピールできる。「CUC留学生会」は、そんな理由から生まれました。2018年に設立準備が始まり、2019年から実際に活動が開始されました。僕も最初の段階から参加しています。

はじめは多国籍なメンバーが集まっても、結局同じ言語同士で話してしまうなど問題もありました。しかし、少しずつ改善し、なるべく日本語を使うなど、会でのルールや運営方針を決めていきました。

日本人学生との交流も、留学生会の目的のひとつです。月に1回は交流イベントを企画して、留学生だけでなく日本人学生にも声をかけています。日本語の上達のためには、たくさんの日本人と友達になって会話するのがいちばん。また、ほかの留学生が話す日本語を聞くところ「ここが間違いやすいんだ」「ここ



は真似しよう」と勉強になります。

2018年秋のバーベキューからスタートして、これまでにいろいろな交流イベントを開催してきたおかげで、僕も含めて

留学生仲間は日本人の友達がたくさんできました。日本語も上達したように感じます。今後も面白い企画を考えるので、さらに多くの人に参加してもらいたいですね。

留学生として、もっと力を発揮したい。地域のボランティアにも挑戦。

留学生会では今年から、地域のボランティア活動にも力を入れる予定です。これは、僕自身の経験も関係しています。

日本語学校に通っていたころ、たまたま知り合った日本人の方に誘われて、地域のゴミ拾いやお年寄りとの交流ボランティアに参加しました。やってみると、友達もできるし、自分と違う視点を知ることでもできる。人のためだけでなく自分のためになって、世界の温かさが感じられる活動だと思いました。

CUCに入学してからボランティアがしたくて国際センターに相談しに行ったところ、市川市国際交流協会の方を紹介してもらい、市内の外国人家族のサポート活動することになりました。僕が担当したのはキルギスから来た家族で、子どもたちの教材を翻訳したり、一緒に遊びながら日本語を教えたりしました。自分も日本に来たばかりの頃は苦労したので、子どもたちが同じ苦労をしないよう、サポートできるのがうれしかったです。その経験から、留学生の力を生かして何か活動ができないかと考えました。僕ひとりでは力が足りないかもしれないけれど、留学生会のみんなが集まればきっといろいろなことができるはず。そう考えて大学とも相談しながら、地域活動を始めることにしました。

まずは地域の小学校などで、留学生が自国の食文化を紹介する活動を予定しています。子どもたちにいるような文化を伝えながら交流を深め、その後は市川市とも協力して、留学生だからできることに挑戦していきたいです。

人との交流で視野が広がり、自分の未来も広がっていく。

僕が留学生会やボランティアなどの活動をしているのは、やっぱり人と交流するのが好きだから。いろいろな人と話すことで、視野が広がるんです。ゼミの先生はカナダ人ですし、CUCサマープログラム^{※2}では世界各国の大学生と友達になれます。文化も違うし学んでいる学科も違うので、違う考え方を知ることができるのが楽しいし、勉強になります。

アルバイト先の都内のホテルで、世界中から来るお客様と接するのも貴重な経験です。僕はイスラム教徒なので、日本に来た頃はハラールフード^{※3}を探すのに少し苦労しました。でもホテルでレストランの案内などをすると、世界にはもっと多様な宗教や習慣による食文化の違いがある。少し前まで、自分がビジネスを起さずとしたらハラールの市場を広げたいと思っていたのですが、いまは自分の文化だけに限らず、世界の人が利用できるよう何かを創りたいと考えています。

CUCに来てから、環境問題にも興味を持つようになりました。自然エネルギー100%大学をめざす学生団体「SONE」に友達が所属しているので、省エネの意識も高まっています。自然エネルギーの技術はウイグルではまだまだ進んでいないと

思うので、いつかそういう面でも出身地に貢献できるといいなと思います。

CUCにはほかにも、学生ベンチャー食堂やオープンキャンパススタッフなど、いろいろな活動を実践している友達がたくさんいます。学生の自主性を大事にして、何かあれば相談に乗ってくれる、そんな先生やスタッフと学生の距離が近い感じも好きですね。

留学という道を選んだことで、日々新しい出会いがあって、自分の世界が広がっていくを感じています。これを読んでいるみなさんにも、ぜひ挑戦してもらいたいと思います。まだちょっと勇気が出ないという人は、まず日本に来ている留学生と交流することからはじめてみるのもオススメです！

※2 毎年夏にCUCがホスト校となり、世界の大学から学生を招いて交流を行うプログラム。
 ※3 ハラールはイスラム教で「許されたもの」という意味。食品だけでなく、服装など生活全般に関わる。

留学生会

CUC国際センターの協力のもと、留学生が自主的に立ち上げた相互扶助組織。留学生同士の出身地を超えた交流や、日本人学生との交流促進をめざしている。また、留学生ならではの語学等を生かした地域活動も計画している。留学生との交流イベントは国際センターから告知している。

※この記事の取材・撮影は3月11日に行いました。